

松山平野巡検

新 谷 文 枝

7月16日晴天。今日の巡検は杉谷先生と先生の同級生の愛媛大学・平井先生ご指導のもと、松山平野の各所をまわり、中央構造線や、他にもこの地でしか見られない地形を見ることを目的としている。

実は私達一行はこの前日まで熊谷先生指導の面河巡検に参加しており、みんなの顔は、心なしか疲れ顔。しかし、高校の頃からずっと地理の教科書ではおなじみの、といってもまだ見たことのない構造線なるものを見られるということで、やはり地理学科の血がさわぐのを抑えることはできないようである。

松山城ロープウェイ乗り場に集合。まずは、松山城の高台から松山平野を眺望した。その特徴は、海岸平野の部分は縄文海進によって形成されたものであり、内陸部は重信川と石手川の合流扇状地であり、その先は伊予断層と接していることだと説明をいただいた。

あわただしく松山城を後にし、バスで砥部衝上断層の観察に向かった。これは中央構造線の古い時代の活動によるもので、川底を見ると川の途中で地質が変わっているのが見えた。灰色と、茶色の岩石が接触しており、新しい岩石が北から古い岩石の上に乗上げたものと説明を受けた。

次に向ったのは砥部焼の工場である。製造工程を一通り見学したあと、今は使われていない本物の登り窯の中まで案内していただいた。窯の中は驚くほど広く煙でいぶされてすすけた天井や、融

けた灰で光っている壁などが趣深かった。

谷間の道を通って伊予市へ抜け、山麓の溜池を見学。これも言葉としてはなじみ深い但实际上に見るのは初めてであった。しかしこれも埋め立てが進んでいるという。

ここは、現在は横ずれ運動をしている中央構造線が山麓を走っているため、川筋が屈曲している。それから断層崖を一気に登って谷上山山頂に向かった。道はバスがあえぐほど急で、地球の大きな運動を実感したように思った。

谷上山の頂上の展望台から平野が見晴らせ、昔の浜堤などの地形も観察できた。平井先生の提案でそれぞれ風景をスケッチした。

これで今回の巡検は終わり、松山駅へ戻って解散した。松山という平生来られない場所だけに、いつもの巡検とは違った様相を帯びていたように思う。人々の言葉も違えば、駅の売店で見かけるお土産も珍しく、自然といつもよりはしゃいでしまった。

杉谷先生と平井先生にとっては、さながら動物園のバスを従えての一日となり、さぞお疲れになったことだろう。

私達にとっては、主たる目的は構造線を見るというものであったが、その他にもこの松山の地でしか触れられない文物に一日中とっぷりとつかり松山を満喫できた有意義な巡検であった。

(7月16日 杉谷教官指導)